



コロナ禍と天候不順の影響を受けて、4月以来休止していた平和公園の作業ですが、11月3日に再開しました。この間、平和公園と九条の丘の伸び盛りの草に対しては、やむを得ず除草剤を散布しましたので、夏を何とか乗り切ることができました。

11月3日に11人が勢揃いして、平和公園内の主に日本山妙法寺のお堂がある区域の草刈りを行いました。今回は作業よりもバーベキューをメインにして楽しもうという計画でしたが、事前準備も良く、存分に世界と日本の肉を味わい尽くし、百里の空気も満喫することができました。

今後も作業と共に楽しい企画を考えながら、み なさんの参加をお待ちしています。

中学生が平和公園にやってきた

12月1日(火)の午後、つくば市にある茗渓学園中学校高等学校の中学3年生7人が、平和公園にやってきました。コロナ禍で京都への研修旅行が「常陸国研修」という行事に変わり、班ごとにテーマを決めてフィールドワークをしているとのこと。7人は「百里飛行場と反対運動」のテーマで、基地で説明を聞いた後、平和公園を見学し反対運動についての話を聞きたいと来てくれました。

梅沢・伊達・栗又が案内と説明を行いましたが、 展望台から「くの字」の誘導路と目の前を通過する 戦闘機を見て、驚きを隠せない様子でした。





百里の会

自衛隊は憲法遺反

第12号 2020年12月5日

一般社団法人 百里の会

茨城県水戸市見川 5-127-281 Tel 080-9457-6381 E-mail hyakurip@gmail.com HP https://hyakurip.web.fc2.com

海軍の基地〈百里〉

1 戦時中の日本とアメリカのちがい

日本は銃剣と軍靴で1931年満州事変、1937年には日中戦争と本格的に中国に侵略し、国家総動員法(1938年)を発動し国民に「ぜいたくは敵」「欲しがりません勝つまでは」と耐乏生活を強制し、ついに真珠湾攻撃を仕掛けアメリカとの戦争に突入します。

一方、アメリカの国民生活はジョン・ウェイン主演の『駅馬車』(1939年)が上映され、プロ野球大リーガーの観戦を楽しんでいました。当時のアメリカは世界の兵器廠として第2次世界大戦の兵器・弾薬などその製造を一手に引き受けていました。

戦況も1941年の真珠湾奇襲の後、早くも翌年にはミッドウェー海戦の大敗北、1943年にはガダルカナル島からの撤退、1944年にはサイパン島玉砕、レイテ沖海戦、そして1945年の沖縄決戦と日米両国の国力の差は歴然で日本軍の敗北は明らかでした。

2 世界に類無き "兵士を鉄砲玉"とする特攻隊

勝利なき絶望の戦況で日本の戦争指導者は休戦・終戦の道を選ばず、世界に類のない"将棋の捨て駒"のように使う戦術を選びます。よく知られているのはパイロットがゼロ戦もろとも敵艦隊に体当たりする神風特別攻撃隊です。

しかし、特別攻撃の自殺攻撃はゼロ戦だけではありません。魚雷に兵隊を乗せ敵艦に体当たりする"人間魚雷回天"(阿見町平和資料館に実物大の模型あり)、ベニヤのモーターボートに爆薬を乗せた"震洋"(北茨城市平潟に洞窟の基地あり)、直径 I 5 M もある気球に爆薬を積み偏西風にのせアメリカ大陸を攻撃

する"風船爆弾"(北 茨城市大津)などが あり、そのひとつに" 人間ロケット【桜花】 があります(鹿嶋市 日鉄構内の掩体場 跡に実物模型あり)。

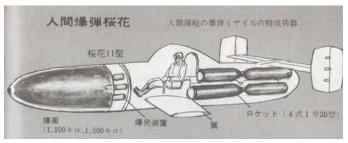


鹿嶋市・桜花公園

3 桜花の生みの親は

桜花の生みの親三木忠直技術少佐は語る。「昭和





19年の夏であった。ドイツのVI号に呼応してわがロケット兵器の研究もまた全力をあげて行われていた。しかし、VI号の目標は地上の間であるが、わが目標は空母、戦艦、輸送船の海上の点である。――目標に対して一発必中の成果を上げるためにはVI号のごとく無人機では到底不可能である。どうしても人力を借りねばならない。だが、人の力を借りれば必中と同時に必死である。ここに悩みがあった」と。

4 "BAKA BOMB"と呼ばれた

【桜花】は神風特攻隊のゼロ戦(戦闘機)のように操縦して敵艦に体当たりするのではなく、ロケット弾に乗って敵艦に突入するのです。一式陸攻(爆撃機)の胴体に2トンもあるロケット弾(桜花)を吊るし、敵艦から距離 I 万メートル・高度3千メートルから発射するのです。速度が遅い爆撃機でしかも戦争末期で制空権がない太平洋では米軍戦闘機グラマンの恰好の餌食となってしまったのです。米兵は桜花を"BAKA BOMB"と呼び蔑称していました。

桜花に搭乗する隊員、これを運ぶ一式陸攻隊員による部隊は1944年10月1日、第721部隊として百里原海軍航空基地で編成されます。通称、神雷部隊として。命名は岡本元春指令が「疾風迅雷」の迅雷をもじって"神雷"としたといいます。特攻飛行隊長の野口五郎少佐はこの桜花作戦を愚の骨頂と批判していました。

(2.26事件の首謀者のひとりでピストル自殺した野口四郎の弟。桜花で戦死)。

5 百里で初の飛行テスト

第721部隊は「ななふたひと」と呼ばれていました。 百の位は機種、十の位は所属鎮守府、一の位は常設 か特設かを示します。百の位の」は偵察機、2·3は戦 闘機、4は水上偵察機、5は艦上爆撃機・艦上攻撃機、 6は航空母艦機、7は陸上爆撃機・陸上攻撃機、8は飛 行艇、9は哨戒機、10は輸送機。10の位は、0から2ま でが横須賀、3·4が呉、5·6·7が佐世保、8·9が舞鶴 鎮守府。1の位は奇数が常設、偶数が特設。

七二一空と言えば「陸上攻撃機で横須賀鎮守府に 所属の常設航空隊」という意味でした。10月31日、百 里上空で初の人間ロケット桜花の有人飛行テストが行 われました。

まさに、桜花にソリをはかせ、ロケット燃料がなくなる タイミングを合わせての着陸は神業であります。有人飛 行テストが終わると、721部隊は百里から神栖の神ノ 池の専用基地に移動します。





↑ 一式陸 攻と 【桜花】隊 ^冒

← 一式陸 攻から切り 離された 【桜花】

6 神ノ池で訓練し出撃するも、全滅

有人飛行テストを終えた神雷部隊は翌1945年(終戦の年)3月21日午前8時、鹿児島沖に現れたアメリカ機動部隊めがけて出撃します。陸攻27機のうち18機に"人間ロケット【桜花】"を吊るし、野中飛行隊長を先頭に敵艦に向かいます。迎え撃つ米軍グラマン戦闘機50機。戦闘は15~20分で終わり第1次桜花部隊は

野中以下160名が全滅。

桜花隊員の遺書「征く征くも いかでさびしき我身には 母の腹巻守りしてあらば」(甲種予科練 18期・松尾登美雄飛行兵曹20歳)

つづく神雷部隊の出撃は沖縄本島にむかう米艦隊 上陸部隊が目標となりました。4月1日に(米軍18万 の歩兵が沖縄本島に上陸)6機で出撃・全滅。戦果を 記す「効果欄」はすべて空欄のままでした。

7 【桜花】で800人が犠牲に

特別攻撃隊は1945年3月21日の沖縄特攻から始まり、8月15日まで続きました。特攻犠牲者は海軍が2068人、陸軍が1917人にのぼり、海軍の4割に当たる800人以上が桜花による犠牲者でした。

鎌倉の臨済宗大本山建長寺の裏山の洞窟には神 雷部隊の800名以上の名を記した銘板が安置されて います。

8 日米両国の戦争観のちがい

国の命運をかけて国と国が戦う戦争。名も知らず何の恨みもない他人同士が殺し合う戦争。兵隊は加害者であると同時に被害者でもあります。戦争は天災ではなく人災です。このような愚かな戦争であってもそれぞれの国には戦争観があります。アメリカは50%の犠牲者を出すと思えば撤退をする決まりがあります。反対に日本の場合は天皇のため国家のために兵隊のみならず住民のひとりまで戦えという玉砕戦術を命令します。世界に類を見ない天皇制軍隊の性格があります。日本の戦争で学ばなければならない大切なことです。

また、特に20世紀に入ってからは兵器の近代化・改良と戦争性格・規模の拡大によって戦争の悲惨さは極限に達した感があります。ナチ・ドイツのユダヤ人大虐殺、日本の731部隊の生体解剖、重慶無差別攻撃、そして最後はヒロシマ・ナガサキへの原爆投下。現在、1万5千以上ある世界の核兵器を1発でも使わせてはならない。21世紀に課せられた人類最大の課題です。特に日本は【桜花】などという非人道的な兵器使用と最新科学の粋を集めた原爆の悲劇を被るという二重の意味で、我々日本国民は特別な位置にある事を考えなければならないと思います。

詳しくはつぎの書籍を参考にして下さい。 『魔性の歴史』 森本忠夫 文春文庫 1991年 『桜花』 内藤初穂 中公文庫 1999年 『特攻』 御田重宝 講談社文庫 1992年

パラオのおかあちゃん、百里にくる

国連軍縮特別総会と世界に広がる反核運動

1950年の朝鮮戦争を契機に米ソ冷戦は本格化しますが、それは核軍拡競争という形で展開されます。具体的には大陸間弾道弾 (ICBM) でモスクワ、ニューヨークを攻撃目標とするものでした。しかし、1978年前後からアメリカの中距離核ミサイル・パーシング2とソ連のSS20がヨーロッパに配備され、核戦場となるに及んで、ヨーロッパから世界に反核運動が一挙に広がります。1978年に軍縮のみを議題とする第1回国連軍縮特別総会(1982年に第2回)が開催されます。1980年前後はアメリカ大陸間横断の100万人にも及ぶ反核平和行進、ヨーロッパ各地の20~30万人集会などこれまでにない反核運動が捲き起こりました。

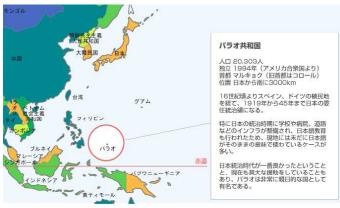
パラオで非核憲法が制定される

そんななかで太平洋ミクロネシアのパラオは戦後47年から国連の委託の下でアメリカの信託統治領となっていましたが、1979年7月アメリカの核兵器持ち込みを禁止する"非核憲法"が住民投票で決められたのです(当時の人口は2万人を切っていたと思います)。戦前は日本の委任統治下にありパラオの人たちは日本人に親しみをもっていました。喜び歓迎したのは日本の反核・平和勢力でした。早速、原水協や日本平和委員会はパラオのおかあちゃんたちを反核集会に招き歓迎・交流しました。1980年の秋に10人ぐらいの"おかあちゃん"がやってきて日本各地で歓迎集会が開かれました。

内原の鲤渕学園で歓迎

普段は野良仕事で人前などで話すことのないパラオのおかあちゃんはクタクタになってしまったのです。多分、日本平和委員会の小林徹さんか熊倉啓安さんだったと思いますが「伊達君、パラオのおかあちゃんたちがくたびれてしまったので茨城で楽にしてやってくれないか」と電話で頼まれたのです。

みんなと相談して、戦前満蒙開拓青少年義勇軍の 幹部訓練所で戦後は農業専門学校鯉渕学園の迎賓 館を一晩借りることにしたのです。はじめは、通訳を交 えてのしどろもどろの話し合いでしたが、おいしい手料





理とお神酒がはいり、それまでの歓迎集会とは全くちがいリラックスして、歌が出てくるとさらに踊りだしたのです。パラオの方々は元気を取り戻し夜が更けるのも忘れて楽しんだのです。茨城のメンバーは今は亡き高畑弘さん、現在もAALAで頑張っている佐川廣文さん、吉成和夫さん、戸塚育甫さんら高教組の人達でした。

百里平和農園で元気に交流

翌日は百里平和農園のサツマイモの収穫祭で楽しんでもらいました。百里基地反対同盟委員長の百里のたたかいの話を聞いた後、サツマイモを掘りをはじめたのですが、そこで思わぬ光景に出くわしたのです。パラオのおかあちゃんたちは掘り出したサツマイモの泥を手で払ってかじり出したのです。これには一同驚きました。しかし、パラオではタロ芋が主食でいつものように食べているとのことでした。広々とした百里原でみんなと楽しく食べ、普段の我に返ってもらい東京に戻ってもらいました。百里のたたかいの楽しいひとコマでした。

その後パラオは1994年10月1日にアメリカに委託された国連による信託統治が終了し、パラオ共和国として独立し国連に加盟します(国連による信託統治領はパラオが最後となりました)。